

〔研究ノート〕

阪南大学型「高大連携」の現在 (2)

——高大連携強化へ向けた新たな提案と プログラムの拡充 (2023 年度実施状況) ——

神 尾 登 喜 子

高大連携プロジェクトチーム

- I はじめに
- II 2023 年度のカスタマイズと高大連携の PDCA
- III 新規プログラムと法隆寺国際高等学校
- IV 「サキタン」受講者増とニュースバリュー
- V 「サキタン」「ワンユニ」2023 年度まとめ

I はじめに

『阪南論集人文・自然科学編』第60巻1号において、「阪南大学型「高大連携」の現在 (1)」と題して、阪南大学高等学校 (以下、「阪南大高」と記す) との高大連携の経過を記載した。その最後に「2023 年度へ向けての改善点は多々発見された。その仔細は、「阪南大学型『高大連携』の現在 (2)」で明らかにしてみたい。」¹⁾と明記している。それにしたがって、本稿は2023年度の現状を記すものである。なお、29頁に「付表」として2022年度から2024年度までの阪南大学「サキタン」「ワンユニ」の高大連携事業年表を付けてある。

一先ず、同一法人の阪南大高をメインにした高大連携「単位先取りプログラム」(略称「サキタン」)²⁾は、運用上のシステム設計としては、2022年度において完成をみている。もちろん、「完成形」ではないため、運用していく中で生じた不具合は適宜修正を行っていくことを必要不可欠な事項とし、これを高大連携プロジェクトチーム (以下「PJ」と記す) での共通認識とした。

このようなPJによる教職協働が実現したの

も、田上博司前学長 (以下「前学長」と記す) 直轄のもと³⁾、2023年度「高大連携プロジェクトチーム」が、法人・大学の枠を超えて、各セクションから若手事務職員を構成員として、全学的に設置され、PJそのものに明確な位置付けが行われたからに他なるまい。それによって、阪南大高へのプログラムの多角化も図られることになった。

II 2023 年度のカスタマイズと高大連携の PDCA

2023 年 4 月 20 日 (木) 開催の「学長直轄高大連携プロジェクトキックオフミーティング」では、プロジェクトテーマを「シームレスな (継ぎ目のない) 教育の確立」と設定している⁴⁾。

そこでの取り組みスレッドは、以下の4点である⁵⁾。

- ①単位先取りプログラム (通称: サキタン)
- ②阪南大学高等学校キャリア支援強化プログラム
- ③阪南大学高等学校特別キャンパス見学会
- ④阪南大学高等学校情報交換会の開催

特に、上記②「阪南大学高等学校キャリア支援強化プログラム」は、「就職の100%保証」をテーマとして、次を実施内容としている⁶⁾。

- ①本学が実施する資格講座の1つを無料で受講することができる
- ②月に1回程度キャリアガイダンスを実施
このプログラム設計にあたり、高大連携のさ

らなる拡充を目的として、阪南大高以外の協定高等学校他、本学への進学者が顕著な高校及び教育連携について可能性のある高等学校への「サキタン」提供が計画としてあった。ただし、PJでの検討の過程で、併設校である阪南大高とそれ以外の高等学校との入学後の差異化を図る必要があるとの結論となった。

その差異化のポイントとして、阪南大高から本学への進学後において、さらなる強化プログラムが必要であるとの方針を打ち出すこととなったのである。それが上記の「就職の100%保証」を掲げた卒業後をイメージさせながら運用するキャリアを軸とした支援プログラムである。

このプログラムによる効果としては、以下の6点を勘案した⁷⁾。

- ①大学選択時点で、「就職」という未来の不安を解消する。
- ②阪南大学高等学校の学生が阪南大学高等学校特別入試を受験し、本学に入学する大きな呼び水となる。
- ③阪南大学高等学校にとっても中学生の志願者を引き寄せる材料になる。
- ④早期に就職を意識することにより充実した大学生活を送ることができる。
- ⑤資格を通じて、挑戦する心、その先にある成功体験を獲得する。
- ⑥就職に強い阪南大学を更に推し進めることができる。

PJでの検討として特に注視したのは、③の阪南大高への進学者確保の一助となる高大連携の設計と、⑤の大学1年次での資格取得による成功体験の提供である。取得する資格としては、秘書検定2級を設定した。

秘書検定の設定にあたって、阪南大高への提案とオーダー及び議論を経た上で、最終的な合意事項となった。当初、前学長からは「秘書検定」については、女子学生のイメージがあることを理由に、懸念が提示された。

しかしながら、PJとしては社会人としての基礎教養の涵養及びその育成、さらには、資格を

取得するという成功体験を阪南大高からの進学生が獲得することが目標であることを事由として、斯かる結論を許容してもらうこととした。

一度設計したプログラムを運用することは容易である。けれどもそれだけでは、先細りに陥ることは必至である。PJでは、「常に新たな提案とオーダーを」という観点から、上記のような設計を阪南大高への提案として実施してきた。その中で、高大連携の教育提供の拡充の観点から、他の高等学校への授業提供への理解も併せて行ってきた。

Ⅲ 新規プログラムと法隆寺国際高等学校

本学の教育連携協定校として、奈良県立法隆寺国際高等学校（以下「法隆寺国際」と記す）がある。授業提供を基盤とした高大連携の拡充を模索するにあたり、様々な高等学校がPJでは挙がった。その第一候補として考えられたのが教育連携を含む協定を締結している上記当該高校である。

2023年度、前学長は「AI・データサイエンス」を提供科目として訪問している。しかしながら、その提案は上田精也校長から却下された。「当校の生徒には適合性が低い」という理由からである。PJでは、再度、法隆寺国際の教育学科として「総合英語科」「歴史文化科」があることに注目し、教育課程の詳細な分析をふまえ、本学からは「異文化理解」をテーマに国際コミュニケーション学部（現国際学部国際コミュニケーション学科）の以下の科目を提案することとなった⁸⁾。

- ◎対人コミュニケーション心理学
- ◎都市文化論
- ◎多文化社会論
- ◎ホスピタリティ英語1

結論からいえば、当時の校長からこれらの科目も本校（法隆寺国際）の生徒には難しいのではないかと理由により却下された。併せて、

Mar. 2025

阪南大学型「高大連携」の現在 (2)

5日間15コマの単位認定が可能となる「サキタン」も通学距離との関係から難しいとの理由によって本学からの提案は却下されている。

ただ、その際に法隆寺国際の校長から1日での「おためし授業」はできないか、とのオーダーが提示された。PJでは、この「おためし」という表現にどのようなプランニングを行えばオーダーに応えられるのかを思考することとなった。

「学長直轄高大連携プロジェクトキックオフミーティング」では、当初、法隆寺国際に対しても既修得単位認定制度（「サキタン」）の適用を考えていた⁹⁾。けれども、当該校からのオーダーは上記のとおり「おためし」である。この「おためし」を通して法隆寺国際の生徒に何を成果として持ち帰らせることができるのか、という課題に直面した。PJでは、そもそも、1日だけの「おためし」で何が実現するのか、という負のループに陥った。

負のループの中で再度、法隆寺国際には生徒の負担を考えた上で、授業実施をあべのハルカスキャンパスで行う旨を提案したが¹⁰⁾、それでも大学の授業を受講させることに難色を示される結果となった。法隆寺国際側のオーダーである「おためし」にできていないPJ提案だった、と考えれば改善策の提案にはまだ余地がありそうだった。

ここで、法隆寺国際から2022年度に阪南大学高等学校（以下「阪南大高」と記す）と同質の内容が付け加えられた。「レポートが書けるようにしてほしい」というオーダーである。簡単に言ってしまうと「言語化力」の体得である。そこでPJでは、法隆寺国際への高大連携プログラムへの考え方を根本的に変更した。

- 1)「レポートが書ける生徒」にするためにどのような授業提供をするか。
- 2) 授業課題の設定難易度をどこにおいて設計するか。
- 3) 1日のみの特別感を表現するプログラムのネーミングをどのようにするか。

様々な提供科目をPJでは検討したが、結論としては、2022年度3月実施の阪南大高での経

過をふまえ、筆者が担当することとなった。実施は、法隆寺国際からのオーダーで2023年8月24日と決まった。授業プログラムは、全15回の授業において、他の回に干渉しない授業内容を取り出した設計である。具体的な内容としては、以下のとおりとなる。

- 1 限：本授業を通して学ぶ事柄と高等学校諸科目との連動性－大学での学びのために必要な高等学校の授業－
- 2 限：全てを翻訳できない文化概念と翻訳の限界－言葉の翻訳と文化の翻訳－
- 3 限：レポート作成の方法（1）－振り返りの方法とkeywords抽出－

これは、法隆寺国際への提案として、以下を記載していたことによるものである¹¹⁾。

- 大学の正規授業を受講することにより、大学入学後の高等学校での学修の重要性を再認識することができる。

☞高等学校在学中に大学の授業との関連性を理解することで現在の学びの重要性を理解することができる。

これにより1限目の授業内容は確定する¹²⁾。さらにPJでは、「おためし」プログラムを「One-Day University Student Program」とし、略称を「ワンユニ」と決定した。かくして実施日には18名の受講生徒が本学のキャンパスを訪れてくれた。

この「ワンユニ」は、法隆寺国際との協議の結果、2024年3月6日（水）にも実施している¹³⁾。2023年度第2回目の実施にあたっては、10名の生徒のエントリーを受けたが、そのうちの2名は、2023年8月実施に受講した生徒であった。

法隆寺国際との高大連携プログラムでは、阪南大高とは異なる課題と直面することとなったが、結果として「ワンユニ」を設計する機会にもなった。1日のみのプログラムによって、生徒のエントリーへのハードルはPJが予測した以上に下がった。

のみならず、「ワンユニ」を実施するにあたっては、属人性はさほどないかと思料するところである。法隆寺国際からのオーダーに応えるこ

とと、それを実現する科目及びプログラムの提供である点に鑑みれば、授業実施者は格段に拡充するはずである。

Ⅳ 「サキタン」受講者増とニュースバリュー

2023年度、先述したように「阪南大学高等学校特別キャンパス見学会」を実施している。これは、筆者が2016年度井上博元学長の下で副学長をしていた関係から阪南大高と阪南大学との交流会で現阪南大高岸本尚子校長と筆者との双方から発案したプランであった。だが、残念なことに時期尚早であったのだろう。井上元学長時代には、むしろ阪南大高と本学との間での情報交換をそれ以前よりももっと緊密に行っていく必要がある時期であったと言えるだろう。また、学内でも高大連携への理解が現在ほど浸透していなかったことも理由の一つであった。

そこから7年越しの阪南大高生2年次生450余名の特別キャンパス見学会が実現する。2023年12月11日(月)がその実施日である。そこへ向けてPJは、改めて阪南大高へヒヤリングを行う。その中で、単にキャンパス内の施設を見学するだけでは、他校に対して実施するキャンパス見学との差異化がはかれないため、近未来に決断しなければならない進学を考えるきっかけとなる新たな課題のオーダーとなった。

PJでは予め、2年次12月という時期の実施を勘案し、生徒の「自己分析チャート作成」を考えていた。事前にそれを阪南大高の「探究」の時間に作成することを提案した。特別キャンパス見学会の際に、具体的にそれをどのように使うのかを筆者よりプレゼンテーションを行い、後に筆者により添削及びコメントを記入し2024年1月に返却している。

特筆しておけば、この特別キャンパス見学会に向けての「自己分析チャート作成」は、PJ内での検討では2023年度3月の「サキタン」に向けてのメルクマールと位置付けていた。そのため、2023年度は改めて「サキタン」での授業プ

ログラムのマイナーチェンジを行っている。その詳細は、「阪南大学型『高大連携』の現在(3) (『阪南論集 人文・自然科学編』第60巻第2号)」32頁に記している。

PJでは、2023年度実施にあたり、2022年度が38名のエントリーであったため、多くても50名との予測を立てていた。阪南大高への本プログラムの提案時も上限人数を設定していなかった。結果として122名のエントリーから、生徒の諸事情により112名が最終受講者数として落ち着いた。

PJとしては、100名余の人数を想定しなかったため、各回の授業課題の添削及びコメントを2022年度並みに実現するには物理的に困難であるとの結論となった。そこで、本学1年次生全員履修科目「スタディスキルズ」の担当依頼を行っている株式会社イングに講師派遣を打診し、4日間の1・2限の課題への添削・コメントを依頼した。3限の課題は筆者が行うことを阪南大高と受講生徒に授業開始段階で伝達している。

さて、100名を超える受講生徒のエントリーの背景には、阪南大高2年次担任各位と生徒の保護者による高大連携プログラム「サキタン」への理解が深められた結果であるとPJでは分析している。加えて、2022年度に制作した動画シラバス(90秒)を、2023年度の制作では60秒から30秒程度に短くしたことも功を奏した。

また、阪南大高へのヒヤリング時に高校側から生徒の授業中の集中度合についての懸念を伝えられていたが、それも結果としては杞憂に終わっている。100名余の受講生徒諸君は、本プログラムを受講することによる成果の中でも、特に自己肯定感を体感していたようである。

実際に、2024年3月24日(日)開催の本学のオープンキャンパスに受講生の数名が保護者と来学していたことをふまえれば、少なくとも、保護者が本学への関心を持ってくれたことは想像に難くない。その端緒となったのが「サキタン」であったことは、保護者からも伝えられていることをここに記しておく。

Mar. 2025

阪南大学型「高大連携」の現在 (2)

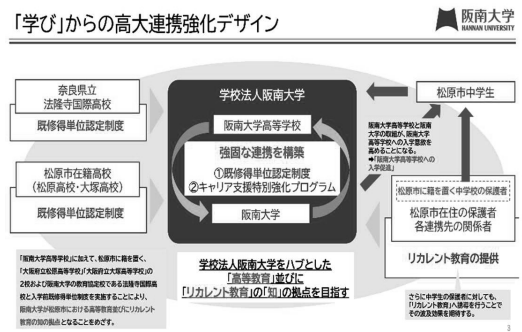
試行錯誤の中で阪南大高との2023年度高大連携プログラムを実施したわけであるが、3月へ向けての準備期間中に、総務企画課浮田真実子氏により高大連携にかかわるプレスリリースが行われた。それによって、「阪南大が高大7年間の教育連携強化 高校生が大学授業を受講、「就職100%保証」も」のタイトルで、共同通信とYahoo!ニュースが取りあげている¹⁴⁾。

メディアで取り上げられることにおいて、中でも阪南大学高等学校キャリア支援特別強化プログラムの「就職100%保証」の文言について総務企画課に共同通信より問い合わせがあり、堀満暁課長（現企画課長）が対応している。「サキタン」や「キャリア支援特別強化プログラム」はあくまでも教育プログラムであることをもって考えれば、メディアに取り上げられることが全てではない。しかしながら、本学の高大連携の取り組みが注目されたことは事実である。

その上で、言及しておくならば、高大連携プログラムは、高大7年教育にとどまらず、卒業後も視野に見据えた学修者の育成という観点をより意識したプログラム提供が必要なのかもしれない。それが、最終的に本学のリカレント教育に結びついていくことがあればなお良いということになるうか。

V 「サキタン」「ワンユニ」2023年度まとめ

2023年度、法隆寺国際で2回の「ワンユニ」、阪南大高でキャンパス見学会と「サキタン」が



実施された。2022年度に引き続き、本学からの提案と高校側からのオーダーという対応を行ってきた。その先に何をPJとしてさらに提案するのが、2024年度へ向けての課題である。

それと共に、2023年4月20日（木）に開催されたキックオフミーティングでの資料¹⁵⁾にあるように、松原市内の高等学校へのアプローチも今後の課題である。

さらには、阪南大高や法隆寺国際の高校のリンク等を考慮し、対象校を広げた高大連携も必須となる。入試での志願者状況の分析をふまえてプログラムを提供する高等学校のセレクトが行われることも重要な観点である。

2つの高大連携プログラムを通して、本学の認知度を上げていくには、提供できる科目の拡充と担当教員の選抜は必要不可欠な検討事項である¹⁶⁾。2025年度より阪南大高での「探究の時間」のプランもPJに移管された。それと併せて高大連携プログラムのさらなる充実が求められていることになる¹⁷⁾。

最後に、本プログラムによって、受講した生徒諸君は実際にどのような成長を示したのかについては、「阪南大学型「高大連携」の現在 (3) 及び (4)」として、まとめる予定である。阪南大高、法隆寺国際からのオーダーに応える結果となったのか否か。それを明らかにしてみたい。

【付 記】

1：2023年度後期より、高大連携プログラムに立田紗奈氏（教務課所属〔阪南大高卒業生〕）、2024年度より田中広太氏（教務課所属）がPJメンバーとして加わった。岡野氏におかれては、「サキタン」実施期間中の出欠をはじめとする煩瑣な各種生徒の基礎データ管理を担当頂いた。

なお、阪南大高の「サキタン」実施期間中にご尽力頂いた下記の事務職員各位に感謝申し上げます。

部 署 名	ご芳名(敬称略)
キャリア支援課	全・谷口(桃)・山下
教育情報課	峯林
教 務 課	高島・池宮・星野・藤岡・北岸・前田
入 試 広 報 課	滝谷・香西
総 務 企 画 課	堀・浮田

2: 以下に記すことは、高大連携プロジェクトチームの総意ではなく、筆者個人の考えであることを予め明記しておく。

高大連携プログラム「サキタン」提供科目担当者として、本学における教育の質保証を第一義に2年間実施してきた。しかしながら、今後、本プロジェクトは、理事長の命を受けた現学長の指示によって解散させられる可能性もあるか、と思慮するところである。それが単なる杞憂に終わることを願うばかりである。

* 本研究ノートは、高大連携プロジェクトチームメンバー（浅井・上園・河野・田中・立田〔敬称略〕）各位と斎藤恵子教務課長による内容確認及び資料精査を経ていることを明記しておく。

注

- 1) 研究ノート「阪南大学型「高大連携」の現在 (1) - 阪南大学の「シームレス教育」と阪南大学高等学校のオーダーに応じて (2022年度実施状況) -」『阪南論集 人文・自然科学編』Vol.60 No.1 所収、37-42 ページ。
- 2) 阪南大学高等学校より、「高大連携単位先取りプログラム」が冗長のため略称を考えて欲しいとの要請が提示された。PJ での検討の結果「サキタン」の略称を設定することとなった。
- 3) 令和 5 (2023) 年度第 1 回企画運営会議・学部長会〔開催日：令和 5 (2023) 年 4 月 7 日 (金)〕に、本件は前学長より提案され承認されると共に、2024 年度予算編成において、前大学事務局長井元茂樹氏の指示のもと、各部署からの協力によって、500 万円の予算計上を行っている。なお、「学長直轄高大連携プロジェクトキックオフミーティング」は、令和 5 年 4 月 20 日 (木) に実施されている (上記キックオフミーティング資料は、上園康司氏作成 (作成日時：2021/05/11)・河野千春氏最終更新 (更新日時：2023/04/19) の PPT データから引用)。
- 4) 「学長直轄高大連携プロジェクトキックオフミーティング」(資料作成上園康司氏 (作成日時：2021/05/11)・河野千春氏最終更新 (更新日時：2023/04/19))。
- 5) 注 4) PPT データ。
 - ①単位先取りプログラム (通称：サキタン)
……2022 年度より既に稼働済み。
 - ②阪南大学高等学校キャリア支援強化プログラム
……2024 年度入学生より運用実施。
 - ③阪南大学高等学校専用オープンキャンパス
……2023 年 12 月 11 日 (月) 実施済み。

④阪南大学高等学校情報交換会の開催

……資料作成は、執筆者により作成済みであったが、諸般の事情により 2023 年度は未開催となった。

- 6) ①本学が実施する資格講座の 1 つを無料で受講することができる。

〈条件〉

- ・資格講座の無料受講は 1 年次に限定
- ・受講料のみ無料
- ・教材費等は自己負担

②月に 1 回程度キャリアガイダンスを実施

〈ガイダンス内容例〉

- ・キャリアセンターによるガイダンス
(就職関連の情報提供や企業の方の講演、カウンセリング等)
- ・教務課によるガイダンス
(成績指導・履修指導等)
- ・阪南大学高等学校の卒業生 (先輩) との交流会

- 7) 注 4) PPT データ。下線は、筆者による加筆である。
- 8) 「法隆寺国際高等学校と阪南大学の高大連携事業について (学長修正・確定版)」(作成者河野千春氏 (作成日時：2022/07/30)・河野千春氏更新 (更新日時：2023/05/29) の PPT データから引用)。但し、この段階では、各科目担当者の承諾はとっていない。あくまでも本学からの提案段階であったため、法隆寺国際には科目提示に留まっている。
- 9) 注 4) PPT データ。
- 10) 「法隆寺国際高等学校実施に向けた詳細について」(作成者河野千春氏 (作成日時：2022/07/30)・河野千春氏更新 (更新日時：2023/06/22) の PPT データから引用)。この時の提供科目は筆者が担当する「国際文化入門」から抜き出した授業 3 回であった。
- 11) 注 11) PPT データ。当初の提案では、以下の 5 点も盛り込まれていたが、1 日限定ということで、本文引用のみに特化した。
 - 大学への進学意欲を向上させることができる。
 - 事前に大学の授業を受講するため、大学入学後に躊躇うことなく授業をスムーズに受講することができる。
 - 事前に 2 単位を修得することで、留学等の活動の幅を広げることができる。
 - 大学の学びを理解したうえで入学することができ、ミスマッチ等による離学を防ぐことができる。
 - 高等学校と大学との学びの連携で、「高大 7 年間一貫教育」を推進することができる。
- 12) 2 限目は、言語と文化を結び付け、概念が無けれ

- Mar. 2025

阪南大学型「高大連携」の現在 (2)
- ばそれに対応する語句や言葉は生まれないことや、すべてが翻訳できるわけではないことを理解してもらうこととした。3 限目は、「書ける生徒」になってもらうための基礎データの作成の作り方を授業内容とした。なお、別途、担当者である筆者は、「法隆寺国際高等学校用オリジナルプログラムー 270 分でディスカッションが出来るようになろう」と題した資料を受講生徒に配布しプログラムの方向性は明示している。

13) テーマ：自己理解を深める
 授業計画：

 - ①自己理解を深めるⅠ
 ～「今の私」はこんなパーツでできている～
 - ②自己理解を深めるⅡ
 ～パーツの分解と学びをつなげてみよう～
 - ③自己理解を深めるⅢ
 ～自己分析をして近未来を言語化してみよう～

14) 阪南大学における「高大連携 7 年間の教育連携」に係るニュース
 共同通信：https://www.kyodo.co.jp/news/2024-02-15_3839054/（採録日：2024 年 02 月 15 日）
 Yahoo! ニュース：https://news.yahoo.co.jp/articles/af6a62e4f0962d4d822121d3f603d5bff06b269e（採録日：2024 年 02 月 16 日）

15) 注 4) PPT データ。
- 16) 河野千春（現教務課主任）作成による「入学前既修得単位認定制度（「サキタン」）2023 年度実施終了報告書」からの引用。

17) 2023 年度阪南大高「サキタン」の受講生徒の成績判定を含めた結果は、以下のとおりである。

 - エントリー数：122 名
 - 受講者総数：112 名
 - 受講辞退数：4 名
 - 欠席状況：全日欠席 6 名（病欠）
 - 出席状況：全日出席 86 名
 - 単位取得者：99 名（未評価：13 名）

阪南大高側の見解として、本プログラムに参加を想定していなかった生徒のエントリーもあったとのことである。プログラム開始後、部活動との両立ができないとの理由をもって辞退を連絡してきた生徒や、インフルエンザ等による外出禁止によって全日欠席を余儀なくされた生徒がいた。

なお、「S」～「C」及び「未評価」の成績判定基準の明示と、全員に科目担当者からのメッセージを付けて生徒への返却を行っている。併せて、第 14 回目の授業課題も添削及びコメントを記入の上、返却を実施した。
- (2024 年 11 月 15 日掲載決定)

付表：阪南大学「サキタン」「ワンユニ」高大連携事業年表【括弧内は実施月】

連携高校名	2022 年度	2023 年度	2024 年度
阪南大学高等学校	サキタン（3 月）	特別キャンパス見学会（12 月） サキタン（3 月）	特別キャンパス見学会（12 月） サキタン（3 月） ワンユニ特別ゼミ（3 月）
法隆寺国際高等学校		ワンユニ Summer Program（8 月） ワンユニ Spring Program（3 月）	ワンユニ Summer Program（8 月） ワンユニ Spring Program（3 月）

※サキタン …… 単位先取りプログラム
 ワンユニ …… One-Day University Program
 ※本表は、高大連携 PJ メンバーである浅井輝氏（教務部事務部長）のご示唆により作成したものである。